

「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」における工程表

申請担当大学名	高知大学
連携大学名	三重大学、和歌山県立医科大学
事業名	黒潮医療人養成プロジェクト

① 本事業終了後の達成目標

本事業終了後の達成目標	
達成目標	<p>過疎地域に立地する地域医療人材養成拠点病院、行政、保健所、医師会等と連携し、遠隔カンファレンス、オンライン診療などICT活用を含めた教育体制を充実させ、学生が地域で学ぶ機会を質、量ともに増やす。地域ニーズを理解した医療人が育つことにより、平時の地域医療の充実が期待できる他、南海トラフ巨大地震を想定したレジリエンス強化という社会的効果が期待できる。</p> <p>6年間にわたり継続的に学び、地域ニーズを深く理解した地域卒の学生が、診療科選択において、より地域ニーズの高い科を選択し、将来の医師偏在の緩和を目指す。具体的には、地域ニーズの大きいものの十分に養成の進んでいない総合診療科、救急科、感染症科を選択する地域卒卒業医師が増加することを達成目標とする。これまで三大学の地域卒卒業医師499人(臨床研修医を除く)のうち、それぞれに進んだ医師は総合診療科8人、救急科12人、感染症科0人である。事業終了後には、それぞれ20人、20人、3人となることを達成目標とする。また、これらの分野に限定せず地域卒の医師が地域ニーズに応える医師となり、長期的には地域医療人材養成拠点病院の立地する二次医療圏の医師偏在指標の改善を目指す。</p>

② 年度別のインプット・プロセス、アウトプット、アウトカム

		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度
インプット ・ プロセス (投入、 入力、 活動、 行動)	定量的なもの	・体験実習 350人 ・アクティブラーニングコース 375人 ・e-learning制作 6コンテンツ	・体験実習 456人 ・アクティブラーニングコース 444人 ・長期滞在型クリニカルクラークシップ 29人 ・e-learning制作 10コンテンツ	・体験実習 482人 ・アクティブラーニングコース 487人 ・長期滞在型クリニカルクラークシップ 29人 ・e-learning制作 10コンテンツ	・体験実習 482人 ・アクティブラーニングコース 520人 ・長期滞在型クリニカルクラークシップ 29人 ・e-learning制作 10コンテンツ	・体験実習 482人 ・アクティブラーニングコース 533人 ・長期滞在型クリニカルクラークシップ 29人 ・e-learning制作 10コンテンツ	・体験実習 482人 ・アクティブラーニングコース 538人 ・長期滞在型クリニカルクラークシップ 29人 ・e-learning制作 10コンテンツ	・体験実習 482人 ・アクティブラーニングコース 538人 ・長期滞在型クリニカルクラークシップ 29人 ・e-learning制作 10コンテンツ
	定性的なもの	・学生への地域指向性アンケートの実施 ・ウェブサイトの開設	・学生への地域指向性アンケートの実施 ・学生の相互交流 ・サイトビジット実施	・学生への地域指向性アンケートの実施 ・学生の相互交流 ・サイトビジット実施	・学生への地域指向性アンケートの実施 ・学生の相互交流 ・サイトビジット実施	・学生への地域指向性アンケートの実施 ・学生の相互交流 ・サイトビジット実施	・学生への地域指向性アンケートの実施 ・学生の相互交流 ・サイトビジット実施	・学生への地域指向性アンケートの実施 ・学生の相互交流 ・サイトビジット実施
アウトプット (結果、 出力)	定量的なもの	・三大学合同オンラインシンポジウム開催(参加者200人)	・三大学合同オンラインシンポジウム開催(参加者200人)	・三大学合同オンラインシンポジウム開催(参加者200人) ・アクティブラーニングコースの学生の学会発表5演題	・三大学合同オンラインシンポジウム開催(参加者200人) ・アクティブラーニングコースの学生の学会発表10演題	・三大学合同オンラインシンポジウム開催(参加者200人) ・アクティブラーニングコースの学生の学会発表10演題 ・アクティブラーニングコースの学生の論文5編	・三大学合同オンラインシンポジウム開催(参加者200人) ・アクティブラーニングコースの学生の学会発表10演題 ・アクティブラーニングコースの学生の論文5編	・三大学合同オンラインシンポジウム開催(参加者200人) ・アクティブラーニングコースの学生の学会発表10演題 ・アクティブラーニングコースの学生の論文5編
	定性的なもの	・外部評価委員会の事業評価を反映	・外部評価委員会の事業評価を反映	・外部評価委員会の事業評価を反映	・外部評価委員会の事業評価を反映	・外部評価委員会の事業評価を反映	・外部評価委員会の事業評価を反映	・外部評価委員会の事業評価を反映
アウトカム (成果、 効果)	定量的なもの					・総合診療、救急の専攻医10人 ・感染症を志向する専攻医1人	・総合診療、救急の専攻医25人 ・感染症を志向する専攻医2人	・総合診療、救急の専攻医40人 ・感染症を志向する専攻医3人
	定性的なもの			・学生の地域指向性尺度の向上 ・卒業生の地域定着率の向上	・学生の地域指向性尺度の向上 ・卒業生の地域定着率の向上	・学生の地域指向性尺度の向上 ・卒業生の地域定着率の向上	・学生の地域指向性尺度の向上 ・卒業生の地域定着率の向上	・学生の地域指向性尺度の向上 ・卒業生の地域定着率の向上 ・地域医療人材養成拠点病院の医師偏在指標の改善

③ 選定委員会所見に対する対応方針

要望事項	内容	対応方針
①	常に先進的・革新的な取組内容となるよう自己点検・評価のみならず、医療現場・自治体等のニーズを取り入れるための努力を欠かさないこと。	<ul style="list-style-type: none"> <li>各校の連携校事業推進委員会に地域枠学生、医療人材養成拠点病院の医師が参画し、プログラムの改善に努める</li> <li>事業推進委員会に県の医療行政担当者、医療人材養成拠点病院の管理者が参画し、地域ニーズについての意見をプロジェクトに反映できるように努める</li> <li>事業評価委員会において、外部有識者の評価を受けることとし、事業の継続的な改善に努める。</li> </ul>
②	代表校のみならず連携校も含め、長期的な展望に基づく具体的な事業継続方針を策定の上、補助期間終了後は、成果の波及とともに更に発展的な取組として実施できるよう工夫して取り組むこと。	<ul style="list-style-type: none"> <li>代表校、連携校のいずれにおいても、事業実施に当たり、地域医療支援センターと連携をとることとする</li> <li>補助事業終了後を見据えて、人的資源、経費についても県行政を含め検討を重ね、継続的に事業が維持されるように努める</li> </ul>

④ 選定委員会からの主なコメントに対する対応方針

選定委員会からの主なコメント(改善を要する点)	対応方針
長期クリニカルクラークシップに地域枠だけでなく一般枠の学生に興味を持ってもらえるかが重要と思うが、そこに向けての具体的な施策について、説得力が欠けていると思われる。	長期クリニカルクラークシップでは、学生が診療チームの一員として、診療科横断的に、患者さんに継続的に関り、多職種連携、地域との繋がりを理解できるように地域医療人材養成拠点病院とともに質の向上に努めるものとする。長期クリニカルクラークシップは、地域枠学生に限定せず、地域枠学生と一般枠学生がともに学習し、将来の地域貢献の意識を共有できるように努める。学生の学びの成果は合同オンラインシンポジウムで報告するとともに、次年度の実習説明等の機会に学生に周知し、多くの学生に興味を持ってもらうように継続的に努める。
各プログラムで連携して教員・学生を受け入れる記載されているが、指導体制について具体的な記載が乏しい。また、記載されているプログラムが従来のプログラムがどのように発展され、どのように効果的なのか読み取れない。	体験実習、アクティブラーニングコース(総合診療、救急・感染症)、長期滞在型クリニカルクラークシップそれぞれに定めたコーディネータである教員を中心に、学生交流、サイトビジット、e-learningコンテンツの協働制作・共有について協議し、次年度の計画を策定する。計画は各大学の連携校事業推進委員会を経て、事業推進委員会で確認する。連携体制、プログラムの効果は事業評価委員会、学生も参画する連携校事業推進委員会で評価し、継続的に改善に努める。また、サイトビジットやオンラインでの交流により各大学が指導方法、プログラムの改善に努める。それぞれの大学での成功事例の共有や新しい地域医療教育の創出を通じて得られた知見を活かして、カリキュラムの継続的な改善に取り組むものとする。
自己評価体制について、具体的にどんな評価を行うかの記載がない。	本事業で実施するプログラムに参加する学生数、参加した学生の地域指向性尺度、アクティブラーニングコースの成果(学会発表、論文)、制作したオンランコンテンツの数、視聴回数、等により評価する。長期的には、卒業生の地域定着率、総合診療、救急、感染症を志向する医師数、地域医療人材養成拠点病院の立地する二次医療圏の医師偏在指標を評価する。地域医療教育の方略や到達目標、学修成果に関して、毎年、大学それぞれに学生を委員として含む連携校事業推進委員会等で評価するほか、外部の有識者等による事業評価委員会での評価を受け、改善に努めるものとする。
普及に関して、活動とアウトプットは記載されているが、アウトカムおよびそれを評価する指標が設定されていない。	卒業生の地域定着率、総合診療、救急、感染症を志向する医師数、地域医療人材養成拠点病院の立地する二次医療圏の医師偏在指標を評価する。
運営予算獲得について具体案が示されていない。	三大学はそれぞれに地域医療支援センターとの連携体制がすでにあり、本事業にも地域医療支援センターの職員が参画している。本事業は、地域枠学生のキャリア形成卒前支援プランとしての側面もあるため、県行政当局や県内自治体とも協議しながら、事業終了後も継続して実施可能となるように予算の確保を目指すものとする。